



【文学部 歴史学科】おすすめ本・探し方NAVI



基 礎								
	タイトル	著者	出版社	出版年	ISBN	資料ID	コメント	推薦者
1	歴史学入門	福井憲彦	岩波書店	2019	9784000289214	10+0357432	歴史を見る目を喚起するためのさまざまなテーマを各章ごとに取り上げて、わかりやすく解説している。扱うテーマも史料の分類、ネットワーク、記憶と表象、社会的結合関係、人口学、家族など多様である。	白木 太一
2	日本の歴史を解きほぐす	地方史研究協議会	文学通信	2020	9784909658289	10+0371104	地域に残された様々な歴史資料（史料）には、政治的な事件、人々の日常生活、長年培われてきた習俗文化など、様々な事柄が刻まれています。そうした歴史資料の解釈の仕方や向き合い方を、19本の論考で分かりやすく具体的に解説しています。	松本 洋幸
3	日本の歴史を原点から探る	地方史研究協議会	文学通信	2020	9784909658401	10+0371114	「日本の歴史を解きほぐす」に続く、シリーズ『地方史はおもしろい』の第2弾。	松本 洋幸
4	通論考古学	濱田耕作	岩波文庫	2016	9784003812013	10+0332516	考古学がどんな方法で研究する学問なのかを知る古典的名著。	塚田 良道
5	ビジュアル版考古学ガイドブック	小野昭	新泉社	2020	9784787720306	10+0369992	遺跡を発掘すると何がわかるのか、土器や石器からどんな情報が得られるのか、はじめて考古学を学ぶ方にとってわかりやすい入門書です。	塚田 良道
7	ビジュアル版縄文時代ガイドブック	勅使河原彰	新泉社	2013	9784787712301	10+0264766	縄文時代研究に関する主なトピックを、端的に整理して、わかりやすい文章で、文字通りビジュアル的に解説している。縄文時代研究を専門にしない人にこそ読んで欲しい。	富井 真
8	ビジュアル版弥生時代ガイドブック	安藤広道	新泉社	2023	9784787723307	10+0383478	西日本の事例に偏りがちな弥生時代研究の具体的論点について、東日本の事例も多く例示しながら端的に解説している。また、具体論に入る前の数節では、考古学的な歴史像復元のための論理・理論・方法について概説している点もありがたい。	富井 真
10	新版 古代史の基礎知識	吉村武彦編	KADOKAWA	2020	9784047036727		古代史を理解する上で重要な事項について幅広くとりあげ、最新の研究成果を踏まえて簡にして要を得た説明がなされており、初学者に最適である。	大高 広和
11	室町幕府将軍列伝	榎原雅治・清水克行編	戎光祥出版	2017	9784864032476	10+0342881	室町幕府の歴代将軍と主な兄弟たちの列伝。それぞれの将軍の個性やその時代について、わかりやすくまとめられた一冊。室町時代の入門用として最適。	木下 昌規
12	謎解き 洛中洛外図	黒田日出男	岩波書店	1996	9784004304357	10+0027335	「上杉家本洛中洛外図屏風」を題材として、研究史の整理・批判、仮説の提示・検証などのプロセスが詳述されており、歴史研究の入門書として最適。	三浦 龍昭
13	天下人の一級史料	山本博文	柏書房	2009	9784760135561	10+0231182	大正大学の歴史学科は実証的な歴史研究がウリだと聞いた人は多いと思います。では、良い史料とは何なのか。史料を「読む」とはどういうことなのか。それを考えるきっかけになれば良いと思います。	中川 仁喜
14	日曜日の歴史学	山本博文	新潮社	2015	9784101164489	10+0372286	専門の戦国時代から少し時代がずれた江戸時代が中心の内容になっていますが、内容として武士の姿や織豊政権から江戸幕府について読みやすい文章で書かれています。基礎的なことを学ぶのに、おすすめです。	佐々木 倫朗
15	阿部一族	森嶋外	岩波書店	2007	9784003100561	10+0210158	史実をベースにした文学作品。物語としての独創性はあるものの、江戸時代の武家の社会的価値観・死生観など近世史を研究する上で認識しておくべき概念を手軽に得ることができる。	柳田 良道
17	入門 大災害時代の文化財防災	高妻洋成・小谷竜介・建石徹	同成社	2023	9784886219084	10+0381155	地域に根差した文化財が各地で被災してしまう経験を踏まえ、普段からのケアと事後の対応に関して、事例紹介をベースにして具体的に説明している。資料編にまとめられた法規・ガイドラインは有用。	富井 真
18	文化財分析：分析化学実技シリーズ 応用分析編7	早川泰弘・高妻洋成	共立出版	2018	9784320044555	10+0349536	応用分析編としながらも、内容はむしろ入門的で、文系の人にこそお薦め。理化学的な分析の方法じたいについては概要にとどめ、それを活かした研究成果（なにがわかったか）について、面白くわかりやすく手短に紹介している。	富井 真
19	完本 仏像のひみつ	山本 勉	朝日出版社	2021	9784255012391	10+0371071	東京国立博物館で開催された「親と子のギャラリー 仏像のひみつ」展の内容を書籍化。誰にでも分かる言葉で説明された、画期的な仏像入門書。	大島 幸代
20	岩波講座 世界歴史（全24巻）	荒川正晴、大黒俊二ほか編	岩波書店	2021－2023	978400383235～10+0384123	10+0383235	1970年代、2000年代と版を重ねた『岩波講座 世界歴史』は、常に最新の歴史研究を背景として出版されています。歴史研究の基礎として、世界史に対する広い知識を獲得するのに最適な本です。て、是非1～2年生のうちに読んでおいて欲しいと思います。もちろん卒論を書く際にも大いに参考になるでしょう。	宮寄 洋一
21	台湾路地裏名建築さんぽ	鄺開翔	エクスナレッジ	2020		10+0371087	ちょっとした海外旅行に最適な台湾ですが、かつては日本が統治していた時代もありました。清朝時代、日本統治時代、そして今の町並みを見ることにより、ぜひ台湾の歴史を再認識してください。	宮寄 洋一
22	『日本史の現在1 考古』	設楽博己＝編, ほか	山川出版社	2024		978-4-634-59138-7	日本史における最新の研究状況を、第一線で活躍する研究者たちが分かりやすく解説している。	
23	『日本史の現在2 古代』	大津達＝編, ほか	山川出版社	2024		978-4-634-59139-4		
24	『日本史の現在3 中世』	高橋典幸＝編, ほか	山川出版社	2024		978-4-634-59141-7		
25	『中世史講義』【戦乱編】	高橋典幸	筑摩書房	2019		9784480073105	『承久の乱』『応仁の乱』など、中世の重要な戦乱について最新研究成果が紹介されている。	
26	『昭和史講義1 最新研究で見る戦争への道』	筒井清忠編	筑摩書房	2015	9784480068446	10+0312043	なぜ昭和の日本は戦争へと向かったのか。信頼できる史料に依拠して、第一線の歴史家たちが最新の研究成果をまとめている。	
27	『論点・日本史学』	岩城卓二 [ほか] 編著	ミネルヴァ書房	2022	9784623093496	10+0381838	古代から近現代までのさまざまな<論点>を網羅しており、現在の研究の到達点を知ることができる。	

応 用								
	タイトル	著者	出版社	出版年	ISBN	資料ID	コメント	推薦者
2	講座日本の考古学2 旧石器時代（下）	稲田孝司・佐藤宏之ほか	青木書店	2010	9784250210082	10+0239166		
3	環境考古学マニュアル	松井章（編）	同成社	2019	4886212735	10+0155153	遺跡が過去にどういった環境にあったのか、なぜその地点が利用されたのか、またその周辺はどんな環境だったのか、という点を理解するために必要な情報収集方法について、現場での実践的な対応に活かせるように編集されている。	富井 真
4	シリーズ古代史をひらく 前方後円墳	吉村武彦・吉川真司・川尻秋生	岩波書店	2019	9784000284950	10+0356066	古墳時代研究の最前線がわかりやすくまとめられている。このシリーズには『古代の都』、『古代寺院』、『渡来系移住民』などもあり、どれも研究の現状をつかひに役立つ。巻末の執筆者座談会もおもしろい。	塚田 良道
6	戦争の日本中世史－「下剋上」は本当にあったのか	呉座勇一	新潮社	2014	9784106037399	10+0272298	蒙古襲来から応仁の乱までの約200年間の「戦争の時代」について、現代的な視点から捉え直し、その実態に迫っている。	三浦 龍昭
7	足利将軍と室町幕府	石原比伊呂	戎光祥出版	2018	9784864032742	10+0345269	朝廷との関係がより密接となった室町時代の将軍について、彼らが求められたものが何であったのか、「武士」とは異なる将軍像を理解するための好著。	木下 昌規
8	日本の時代史（12）戦国の地域国家	有光友学編	吉川弘文館	2003	9784642008129	10+0138517	日本の戦国時代の全体像を、様々な論者がテーマを決めて論じています。社会の仕組みや様々なことを勉強できると思います。	佐々木 倫朗
9	新アジア仏教史13 日本Ⅲ 民衆仏教の定着	末木文美士編	佼成出版社	2010	9784333024414	10+0240819	江戸時代の仏教史は、古代から中世までの古い時代に比べると研究が進んでいないように捉えられがちである。しかし近年は、多角的な視点から複合的に研究が蓄積されつつある。その一端を識ることができる。他の時代や国も扱っており、同シリーズは全ておすすめ。	中川 仁喜
10	逝きし世の面影	渡辺京二	平凡社	2005	9784582765526	10+0186166	江戸時代の日本の姿を、当時来日した外国人らの手記から映し出した作品。実は日本人もよく知らない日本と国民の姿。人間の幸福とは一体何か？を改めて私たちに教えてくれる1冊。	柳田 良道
12	帝国の昭和	有馬学	講談社	2010	9784062919234	10+0236373	昭和戦前という時代を「帝国」「国民大衆」という視点からとらえ直し、「日本」「国体」「戦争」などをめぐって、複数のパラダイムが激しく重層的・継続的に対立する時代として描いた。昭和初期を専攻する学生には必読の本。	松本 洋幸
13	ナポレオン	上垣豊	山川出版社	2013	9784634350625	10+0371079	ここではナポレオンを紹介したが、このシリーズ（世界史リブレット「人」）を全体として推薦したい。どの本も、人物のエッセンスをわかりやすく注釈付きで紹介している	白木 太一
14	講座日本美術史1 物から言葉へ	佐藤康宏編	東京大学出版会	2005	4130840819	10+0176360	美術作品をどのように調査し、基本情報をどのように記録するか、という内容を真正面から取り上げる。長年蓄積された方法論の長所と、それが抱える問題を、両面から把握できる。	大島 幸代
15	ミズノ先生の仏像のみかた	水野敬三郎	講談社	2019	9784065147603	10+0355081	世界一確かな眼をもつミズノ先生（実在）が、「仏像の研究はどのように行うのか？」を講義形式で語る内容。専門的であるにもかかわらず、語り口がとてもわかりやすく、仏教美術研究を志す人には必読の書。	大島幸代
16	人口の中国史	上田信	岩波新書	2020	97840004318439	10+0366071	人口大国の中国。その中国の歴史と人口増加の相関を究明したものです。人口が人間社会にとってどのような意味を持つのか、改めて考えさせられます。是非ご一読を。	宮寄 洋一

学科からのメッセージ
文系の勉強の基礎は、文章を読むことです。最近はや々なメディアが発達して、本を読むことが当たり前のことでなくなっている人も多いと思いますが、本に親しむ中で論理的に物事を考えること、論理的に表現すること、文章を書くこと等の基礎が培われますので、ぜひ読書に親しんで欲しいと思います。